

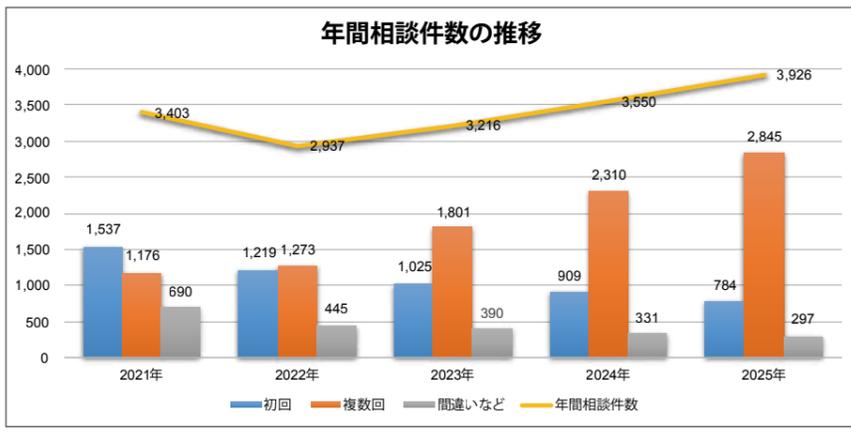
リカバリーサポート・ネットワーク 稲村 厚 代表理事



これまで副代表理事を務めていた稲村厚氏が1月1日、ばちんこ依存問題の電話相談機関である認定特定非営利活動法人「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)の代表理事に就任した。設立から20周年。新体制で臨むRSNは電話相談の体制強化を目指す。【文中敬称略】

“外”に働きかけて 支援の輪を広げる

稲村 財政問題は当然に出てきますよね。パチンコ・パチスロ産業21世紀会をはじめ、多くの業界団体・関係者様からご支援を頂いていますが、遊技業界も順風満帆ではありません。僕が代表になって変えたいことの1つは、財源の頼り先を業界外にも求めることです。個人的なつながりを生かして、依存問題や支援活動に関心が高い業界・一般企業からも募りたい。30年秋に開業を予定するIR施設



設が現実味を帯びるにつれて、ギャンブル等依存問題はさらに注目されます。業界外からも寄付が集まるようになれば、RSNに対する世間の評価は変わります。同時にRSNを20年も前に設立した遊技業界への評価も変わってくるに違いありません。

——遊技業界の依存問題対策を、どのように見えていますか。

稲村 十分に整っていると感じます。全日遊連や各県遊協の幹部の方々は、意識の高いところで本当によく考えられています。そうした上層部には頭が下がりますが、やはり末端となると手薄な部分が残ります。どこまで浸透させられるかが課題であり、啓発を続ける必要があります。

——RSNはホールスタッフ向けにeラーニングを提供しています。

稲村 西村さんが中心になって開発したんですね。僕としては、業界団体にお渡ししたいと考えています。RSNは電話相談に特化してきますから、切り分けられれば。RSNは電話相談で得られた知見をまとめて、ご提供していきます。

——司法書士である稲村さんは、どのように遊技業界とつながりましたか。
稲村 きっかけはワンデーパートの中村さんでした。私が司法書士業務で成

——就任の経緯を教えてください。

稲村 代表理事の交代は、僕が副代表理事になった1年ぐらいい前から準備していました。その頃にはもう西村直之さんが手を掛けなくても、RSNは十分に機能する組織になっていたからです。非常勤を含む8名の相談員たちのスキルが上がって、質的に極めて充実した電話相談ができるようになっていました。それからもう一つ、西村さんがもう少し大きな仕事をしていたら、僕は以前から感じていました。僕はRSNの設立から関わっていますが、ほとんど任せきり。ですからコミットメントを強めるために副代表になって、「僕が引き受けるから、西村さんは自由にやったらどうですか」と。その後はほとんど拍子で進んでいきましたね。西村さんには名誉顧問に就いてもらいました。

——これからのようなことに注力しますか。

稲村 電話相談体制を強化します。システムを最新のものにアップデートして、相談員の負担軽減とデータ収集・分析の効率化を図ります。データ入力が簡便になると同時に、蓄積データの多角的な分析が可能になります。例えば職場や家庭で感じるストレスが、ばちんこ依存問題にどの程度の影響を与えるのか。そうしたことが判明すれば、遊技業界に有意義なフィードバックができると考えています。

年後見や債務整理に奮闘していたところ、中村さんがワンデーパートの立ち上げを手伝ってくれと訪ねてきたんです。2000年の話ですね。僕は債務者がなぜ借金をするのか、その理由や背景に強く惹かれていたので、パチンコやパチスロという原因が分かっているのであれば、やりやすいだろうと応じたんです。そんな折に全日遊連では、大分の力武さんが依存問題に大きな関心を寄せられていて、ワンデーパートに助言を求められていた。そうこうしているうちに、遊技者が電話相談できる環境を整えようという話を持ち上がりました。しかしワンデーパートでは手に余ることが明らか。中村さんが西村さんと出会い、RSNが06年4月に設立されました。ですから僕も一応、RSNの立ち上げに関わりがあります。

——司法書士と聞くと、不動産登記を思い浮かべます。

稲村 それは事務所の方針に左右されると思います。僕は司法書士業務の中でも、相談者の人生に深く関わる対人援助に惹かれて、成年後見や多重債務といった案件に力を入れてきました。僕が司法書士の道を歩み始めたのは、新卒で入社した観光雑誌の出版社を辞めてから。司法書士事務所ではアルバイトを始め、正社員に登用されて本腰を入れました。合格は29歳のとき。当時は20代をうまく過ごせなかったという思いが強くて、自分

——最近の電話相談をどのように見えていますか。

稲村 初めて電話を掛けてくる「初回相談」が相対的に少ないことを問題視しています。25年の実績では「初回相談」が784件(19.9%)。過去に電話してきた方が再び相談してくる「複数回相談」は2845件(72.5%)でした。遊技人口はコロナ禍の底から徐々に持ち直していますが、初回相談件数は年々減少しています。悩んでいる方がRSNに適切につながっていないのではないかと。そのような危惧を覚えます。初回相談者がRSNにつながる主な経路は、ホールのトイレに掲出されている啓発ポスターです。ここをテコ入れして、初回相談の拡大につなげたい。安心パチンコ・パチスロアドバイザーに協力をお願いするかもしれません。

——初回相談者に変化はありますか。

稲村 学生の初回相談が、特に目立つようになってきました。ということはRSNにつながらない学生が背後にいても推測できます。ですから学生がRSNにつながるやすくなるように、主要大学の学生相談室のような“外”にアプローチして、連携できればと考えています。力不足で一挙にはできませんが、徐々に進めるつもりです。

——喫緊の課題はありますか。

——遊技業界にメッセージをお願いします。
稲村 RSNは電話相談が主軸ですが、得られた知見はこれまでどおり共有しますし、業界のご相談にも真摯に応じます。これまでの依存防止対策を脱皮させたいのであれば、RSNと新たな連携先・支援先・遊技業界も新たなセ、求めてみてはどうでしょうか。前とは異なり、業界等依存症対策推進関係者を連ねるほどになるかな。専門的な助言者や専門家などで、各種取り組みのなることを期待

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。
詳細はこちら

いなむら あつし
1959年9月、静岡県熱海市出身。82年、日本大学法学部卒業。88年、司法書士試験に合格。90年、川崎市で開業した。2005年、認定NPO法人ワンデーパート理事長。全国青年司法書士協議会会長、日本司法書士連合会理事、神奈川県司法書士会専務理事を歴任する。24年10月、横浜市で司法書士法人燈(あかり)を設立。現在は東京・千葉の精神保健福祉センターなどで、依存問題関連の家族教室の講師や個別相談を担当する。